

鹿児島空港将来ビジョン

空港・航空業界を取り巻く環境変化

新たな航空需要の創出と
航空技術の革新

空港と地域間競争

空港に求められる
多面的役割

交流人口の拡大と
訪日外国人観光客の増加

労働力人口の減少と
航空産業・空港経営

鹿児島空港の将来像

日本の南の先進的グローバル拠点空港

■ 数値目標

	2017年	2030年	2050年
合計	562万人	730万人	830万人
国内線	533万人	589万人	600万人
国際線	29万人	141万人	230万人

- ◆ 国内外の多様な空港利用者に対する高い満足度と利便性
- ◆ アジアを中心とする海外都市や国内主要都市及び県内離島とを結ぶ多様な航空ネットワーク
- ◆ 国内外の観光客が利用する日本の南のゲートウェイ
- ◆ 最先端の技術やノウハウの導入による効率的運用が可能な航空会社の拠点空港
- ◆ 物流や輸出入、航空関連産業等の地域経済振興拠点であり、災害対応の拠点

※グローバル: グローバルとローカルの合成語。当ビジョンにおいては、アジアを中心とする海外都市という「グローバル」視点と、県内離島を中心とする「ローカル」視点という、多様な航空ネットワークを意味している。

施策展開の方向性

■ 訪日外国人観光客等の需要獲得に向けた戦略の推進

- 戦略的なエアポートセールスの展開
- 離島航空路線の充実と離島観光の振興
- 広域観光の促進による空港利用者の獲得

■ 新たな航空需要に対応した運用改善や施設整備

- LCC／リージョナルジェット／ビジネスジェット向けの受入体制整備
- 駐機スポット及びPBB等の運用改善及び整備

■ 鹿児島空港の魅力を増す機能の強化・充実

- 利用者の利便性向上に向けた取組
- 航空会社の効率的運用に向けた取組
- 他空港との差別化に向けた取組

■ 地域における多面的な「拠点性」向上

- 航空会社の拠点空港機能の向上
- 輸出入・物流機能の向上
- 災害対応機能の向上
- 「地域の拠点性」に対する県民等の理解促進

ビジョンの実現に向けて

関係機関・団体の
自主的・主体的な取組

ビジョンの実現に向けた
推進体制

- 関係機関・団体における推進体制
- 県における推進体制

空港民間委託に係る
研究の推進

【担当課】交通政策課
課長 寺前 大
電話 099-286-2451 (直通)